

## 大学生の LINE の利用に関する実態調査

柳川 容子

近年、スマートフォンの普及により、ソーシャルメディアの利用が拡大している。若年層のコミュニケーション手段はメールからソーシャルメディアに移行し、なかでも LINE は、現在の国内で最も利用率の高いソーシャルメディアとなった。そこで本研究では、大学生を対象に、LINE 利用の実態と、LINE が友人間のコミュニケーションにどのような影響を与えているのかを明らかにすることを目的とした。大学生を対象とする理由は、現在の大学生は大学入学前に LINE があつた学年とそうでない学年が混在しているため、学年ごとの比較も行えろと考えたからである。

調査方法は、筑波大生を対象とし Web アンケートを実施した。LINE の利用状況や LINE 上での実際の行動、利用意識、LINE の効用などの設問を集計・分析した結果、以下の結果が得られた。

大学生の LINE 利用率は 90.9%であり、1 年生の利用率は 100%であった。アカウントは、大学に入学する年に開設している学生が多く、主な利用目的は、「友人・知人との連絡、雑談」であった。故に、大学入学を期に、新たな友人と繋がるためのツールとして LINE が積極的に使われたことが考えられる。実際に、LINE の効用に関する設問では、1 年生の 6 割近くが、LINE が新たな友人関係の形成に役立ったと感じていることがわかつた。

スタンプの効用に関しては、7 割以上の学生が、「スタンプは自分の気持ちを理解するのに役立つ」と回答し、7 割近い学生が、「スタンプは相手の気持ちを理解するのに役立つ」と回答していた。性別ごとの比較では、男子よりも女子のほうがスタンプに対してプラスの効用を感じていることがわかつた。しかし、LINE の効用に関しては、LINE 利用により友人関係の悪化を招いたことや、学業に悪影響が出ることがある等、マイナスの効用を感じている割合が女子よりも男子の方が高かつた。LINE の利用意識において、いじめやトラブルに関する設問では、女子のほうが男子よりも「しないほうがよい」という否定的な回答が多く、女子は LINE 上での友人関係を保とうとする意識が男子よりも高いことがわかつた。

以上の結果により、LINE は友人関係においてプラスの効用とマイナスの効用があることがわかり、特に男女の間で差が見られた。今後は、男女差に着目した更なる研究を行うことが必要となると考える。

( 指導教員 池内淳 )